

第75回 千葉県中学校総合体育大会 バasketボール大会

女子準決勝 戦評

〔女子準決勝〕

市川市立 第三中学校 (市川・浦安)	80	{	22-5 21-10 20-11 17-9	}	35	習志野市立 第五中学校 (習志野)
--------------------------	----	---	------------------------------------	---	----	-------------------------

【評】

関東大会出場をかけた準決勝、市川三は⑥米澤の速攻からの得点や⑦丸山の3Pシュートで流れをつかむ。習志野五はすかさずタイムアウトをとるが、流れを止めることができず、力強いポストプレーやドライブで市川三が得点を重ねていく。対する習志野五も⑥田端のジャンプシュートと3Pシュートを決めて、第1Qを終える。第2Qの立ち上がりも、市川三は第1Qの勢いそのままに⑥米澤、⑦丸山がミドルシュートを決める。習志野五も⑨中川の3Pシュートで追いつくが、市川三の⑩高野の速攻やミドルシュートで点差を広げ、前半を43-15の28点差で折り返す。

第3Q立ち上がり、習志野五は激しいディフェンスからボールを奪取し、⑪竹迫の3Pシュートで反撃の狼煙をあげる。しかし、市川三もルーズボール争いで球際の力強さを見せて流れを渡さず、多彩な攻撃で差を広げていく。最終第4Q、市川三はメンバーを総入れ替えしてのスタート。メンバーが替わってもディフェンスを緩めることなくプレッシャーをかけ、速攻に繋げる。習志野五は積極的にゴールにアタックし、最後まで諦めずにボールを追い続けたが、落ち着いてゲームを進めた市川三が80-35で勝利し、決勝進出を果たした。両者の健闘をたたえ、拍手を送りたい。

〔女子準決勝〕

翔凜中学校 (君津)	37	{	5-19 6-7 5-12 21-14	}	52	昭和学院中学校 (市川・浦安)
---------------	----	---	----------------------------------	---	----	--------------------

【評】

準決勝第2試合、両チームともハーフコートマンツーマンからスタート。身長では劣る昭和学院だが、素早いパス回しで翔凜を翻弄し、④藤原の3Pシュートやドライブで得点を重ねる。対する翔凜も⑫大砂のドライブや⑮安田のインサイドを中心に攻めるが、昭和学院のディフェンスにうまく得点をする事ができない。第2Qは翔凜⑫大砂の力強いドライブからのバスケットカウントでスタート。177cm以上のトリプルタワーでサイズアップし、リバウンドとディフェンスを強化する。対する昭和学院は、それまで攻守ともに身体を張ったプレーで活躍していた⑯石井のファウルがかさみ、ベンチに下がる。互いに決定力を欠くロースコアな展開となった。

第3Qも引き続きお互い厳しいディフェンスにより、なかなか得点することができない。翔凜は粘り強くオフェンスリバウンドをとり食らいつくが、徐々に昭和学院はミドルシュートを高い確率で決め始め、点差を広げた。第4Q開始早々、翔凜のビッグマンがインサイドで連続得点して点差を縮め、残り時間4分でオールコートマンツーマンを仕掛け、プレッシャーを強める。⑫大砂のドライブを中心に得点を重ね、この試合両チームを合わせた最高得点を記録するも届かず、昭和学院が決勝に駒を進めた。両チームの、最後まで粘り強くディフェンスをする姿勢と、オフェンスでノーマークをつくり、オープンシュートを確実に沈めるといった大切なプレーを多々見られる好ゲームであった。両チームの健闘をたたえたい。

第75回 千葉県中学校総合体育大会 バasketボール大会

男子準決勝 戦評

〔男子準決勝〕

八千代松陰中学校 (八千代)	101	$\left\{ \begin{array}{l} 32-6 \\ 22-4 \\ 25-13 \\ 22-18 \end{array} \right\}$	41	旭市立
				第二中学校
				(東総)

【評】

第1シードで安定した勝ち上がりの八千代松陰と、接戦を制して勝ち上がってきた旭二の対戦。序盤、八千代松陰は攻守で高さを生かし、リードを奪う。旭二も④金谷のミドルシュートで応戦する。その後も積極的に攻めるが、高さを意識して得点が伸びない。八千代松陰は⑤小張が3Pを立て続けに決め、第1Qで12点をあげる活躍を見せる。第2Q、旭二はオールコートでプレッシャーを強め、徐々に自分たちのリズムを作っていくが、八千代松陰は要所で④菊谷の速攻や⑨小野の堅実なプレーで流れを渡さない。旭二は攻守の要の⑤白石がファウルトラブルとなる厳しい展開となり、八千代松陰はこの機を逃さずリードを広げ、54-10で前半を折り返した。

第3Q、旭二は⑤白石をコートに戻し、④金谷の1対1、⑦仲森の3P、⑧加瀬の連続レイアップで流れを引き寄せる。対する八千代松陰も⑥大野の3Pや⑩早坂のドライブが効果的に決まる。第4Q、八千代松陰はドライブからの合わせ、旭二は④金谷のバスケットカウントでスタートする。終始一進一退の攻防が続く、どちらのチームもリバウンド・ルーズボールに集中しており、3年生の意地を感じる試合となった。最後まで安定した得点力を発揮した八千代松陰が関東大会出場を決めた。32分間全力プレーを貫き、戦った旭二も素晴らしいチームであった。

〔男子準決勝〕

市原市立 辰巳台中学校 (市原)	49	$\left\{ \begin{array}{l} 17-20 \\ 16-15 \\ 9-8 \\ 7-9 \end{array} \right\}$	52	千葉市立
				椿森中学校
				(千葉)

【評】

関東大会出場をかけた準決勝、両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。新人戦準優勝の椿森は④清水のスティールからの速攻や1対1、⑤村上のドライブなどで得点を重ねる。対する辰巳台は⑦仲田の1対1や3Pで得点を重ね、お互いに譲らない第1Qとなる。第2Q、椿森は④清水を中心に速い展開のオフェンスで主導権を握ろうとするが、辰巳台は⑤長谷川のドライブや⑭永島の1対1で引き離されずに、前半を33-35の椿森2点リードで終える。

第3Q立ち上がり、辰巳台は⑦仲田のジャンプシュート、⑤長谷川のバスケットカウントで逆転する。その後お互いに攻めきれない時間が続いたが、椿森が⑫渡部の速攻で再度逆転して最終第4Qへ突入する。

第4Q開始から一進一退の攻防が続く中、均衡を破ったのは、椿森。④清水のアシストからの⑥井口の3Pで点差を広げる。残り13秒で辰巳台も⑭永島の3Pを返すが、椿森の落ち着いた試合運びで試合終了。接戦を制し、決勝進出と関東大会出場を決めた。敗れはしたものの、最後まで諦めずに戦い抜いた辰巳台の健闘をたたえたい。

第75回 千葉県中学校総合体育大会 バasketボール大会

男女決勝 戦評

〔女子決勝〕

市川市立 第三中学校 (市川・浦安)	50	}	<table border="0"> <tr><td style="padding: 0 5px;">17-10</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">13-7</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">10-15</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">10-12</td></tr> </table>	17-10	13-7	10-15	10-12	}	44	昭和学院中学校 (市川・浦安)
17-10										
13-7										
10-15										
10-12										

【評】

新人戦、選手権と同一カードの決勝戦。両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。市川三は⑦丸山の3Pで先制すると、その後はスクリーンからの2対2を中心にオフェンスを展開し、⑥米澤のジャンプシュートや⑧牧野のドライブで得点を重ねる。対する昭和学院もスクリーンからオフェンスを展開し、④藤原や⑦醍醐のドライブで得点を重ねる。第2Qはお互いに激しいディフェンスを展開する。その中で昭和学院は⑦醍醐の3Pや⑤月松のドライブで応戦する。しかし、市川三は④武藤の3Pや⑥米澤、⑧牧野の力強いドライブで差を広げ、前半を30-17の市川三13点リードで折り返す。

第3Q、追いかける昭和学院はオールコートで激しいプレッシャーをかける。更にオフェンスリバウンドにも果敢に跳びつき、セカンド・サードチャンスをつかみ、④藤原、⑤月松のドライブ、⑧大城の3Pが決まり、差を縮めていく。対する市川三は⑧牧野のドライブや⑥米澤のバスケットカウントで引き離しにかかるが、ミスも出てリズムにのれず、8点差で第3Qを終える。第4Qに入っても昭和学院はディフェンスのプレッシャーを緩めずに相手のミスを誘い出し、⑫石井のゴール下や⑦醍醐、④藤原のドライブで2点差まで詰めより、市川三の背中をとらえる。しかし、市川三は落ち着いたボール運びから⑥米澤が着実にシュートを沈め、最後まで試合をコントロールし勝利を収めた。両者の健闘をたたえるとともに、関東大会での活躍を期待したい。

〔男子決勝〕

八千代松陰中学校 (八千代)	82	}	<table border="0"> <tr><td style="padding: 0 5px;">17-12</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">18-4</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">22-18</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">25-20</td></tr> </table>	17-12	18-4	22-18	25-20	}	54	千葉市立 椿森中学校 (千葉)
17-12										
18-4										
22-18										
25-20										

【評】

新人戦以来2度目の対戦となった決勝戦。椿森は八千代松陰の高さに負けず、粘り強くゴール下でリバウンド争いを展開する。④清水の3Pが2連続で決まるが、八千代松陰は⑦渡邊、⑤小張を中心にゴール下で確実に加点していく。第2Q、椿森は④清水のドライブからの⑤村上の3Pが決まり、流れをつかみ持ち前のスピードある攻めを展開。対する八千代松陰もスピードで負けず、ルーズボール、リバウンドをつかみ⑧和知のドライブ、⑦渡邊の合わせで加点。椿森はゴール下に攻め込むが、素早いチェックで打てず、3Pもなかなか決まらない。八千代松陰は④菊谷の3P、⑤小張のレイアップと中外バランスの良い攻めで得点を重ね、前半を19点リードで折り返した。

第3Qは両チームともにトランジションの速く展開となる。八千代松陰は④菊谷のジャンプシュート、⑪早坂の3P、⑤小張を中心とした速攻で得点。椿森も④清水の3P、⑤村上のジャンプシュート、⑦安山の粘り強いプレーで譲らない。第4Q、椿森は八千代松陰の寄りが速い激しいディフェンスの中、⑤村上や⑦安山のドライブで食らいつく。八千代松陰は高さを生かした⑦渡邊と⑥大野のコンビネーションで加点。その後も互いにゴールをひたむきに狙う戦いであったが、八千代松陰がリードを守り、2大会連続の優勝を決めた。

両チームともめまぐるしい攻守の切り替え、激しいぶつかり合い、点差がついてもひたむきに戦う姿勢、互いをリスペクトする態度の見られる素晴らしい決勝戦であった。千葉県代表として胸を張って関東・全国大会に挑んでもらいたい。

